

The First Publication of Economic Manuscripts in MEGA and New Aspects of Marx's
Economic Theory
和文要旨

守 健二

(1) マルクス再生産表式は、経済学説史上、最初の2部門モデルの1つとして良く知られている。しかしながらこの2部門モデルそのものは、1868-1878年に書かれたマルクスの複数の草稿を、エンゲルスが編集したことから生じたものである。マルクスのオリジナルを厳密に調査すると、彼の多部門分析は2部門だけではなく、6部門モデルも含んでいることが明白である。しかしこの6部門モデルは、草稿編集でエンゲルスが完全に除外してしまった。

(2) マルクスの多部門分析は、1857年恐慌—すなわち、史上最初の世界市場恐慌—に関する研究に起因したものであった。恐慌の間の世界経済に関するマルクスの浩瀚な実証研究はいわゆる1857-1858年の「恐慌ノート」に記録されている。このノートは長期間未公表のままであったが、2017年に初めて新MEGA第IV部門第14巻として公表された。

(3) マルクスの6部門モデルは、非基礎財（少なくとも一つ以上の部門で直接的にも間接的にも使用されない財）が存在し、非基礎財部門が既約（どの非基礎財も他の非基礎財の生産に直接的または間接的に必要）の体系を形成することに特徴づけられる。そのさいマルクスは、基礎財部門と非基礎財部門との間で異なる、ある特異な価値構成（ C/V ）を想定し、生産価格と一般的利潤率を計算するという問題を提起する。